

楽学・楽動(働)・楽歌

～楽しく学び、楽しく体を動かし、楽しく歌おう～

校長 今村 ひろみ

あとひと月足らずで、平成29年度前期の前半が終わります。平成32年度に全面実施される次期学習指導要領において「生きる力」の育成を目指すことはこれまでと変わりませんが、道徳や外国語の教科化など新しい内容も示されています。京都市では、移行期間として今年度から3,4年生で新しく独自の外国語活動を実施します。本校では、5,6年生で40時間、後期から3,4年生で12時間の外国語活動を実施します。また、1,2年生では10分間程度の独自の外国語活動を週1回程度、後期より行います。あわせて、道徳の教科化に向けて、今年度から全校で毎時間のワークシートをファイルにまとめて振り返りをしやすくしています。これからも子どもたちがこれから生きていく将来を見据えた取組を進めていくとともに、目の前の子どもたちに今つけた力をしっかりと見極め、地に足の着いた教育を行っていくことを大切にしたいと考えています。

さて、明治5年の学校創立から145年目を迎えた本校では、これまで永きに亘って培われてきた伝統のもと、学校教育目標にありますように「心やさしく 心身ともにたくましい子の育成」をめざして日々の取組を進めています。今年は、体育科の学習を通して子どもたちが学ぶ楽しさを十分に味わい、対話的で深い学びができるように授業を工夫していきたいと考えています。そして、まず子どもたちの遊ぶ時間・空間・仲間の「三間」がそろっている学校で十分に体を動かして遊べるようにと考えて、今年から火曜日の昼休みを30分間のジャンプアップタイムとしています。校内の掲示板を利用して、遊び方の紹介もしています。これらの取組により、学校はもとより帰宅後も外で元気に遊ぶ姿が増えることを楽しみにしています。また、掃除の時間には黙って掃除をすることで、心を込めて学校を美しくし、学校を愛する気持ちを育てるとともに、一つのことに集中して取り組む力も育てたいと考えています。あわせて、音楽集会などの活動を通して子どもたちの美しい歌声と音楽を愛する気持ちや豊かな心をこれからも大切にしたいと思っています。

全ての取組は、子どもたちが、学ぶことや体を動かすこと、歌うことの楽しさを知るとともに、自分の変容(成長)に気づき、達成感や充足感を味わうことで自己肯定感や自己有用感を高め、さらなる意欲や未来展望へとつながるものと考えています。そのためには、学校の授業だけでなく、基礎的・基本的な学習内容がしっかりと身につくよう家庭学習を充実させることも大変重要です。今年は、年度初めにそれぞれの学年に応じた「家庭学習の手引き」(本校バージョン)を作成し各ご家庭に配布しています。是非、活用していただき、小学校から家庭学習が習慣となるよう学校とともに取組を進めていきましょう。そして、生涯にわたって、学び、体を動かし、歌うことを楽しむ人になってほしいと思います。